

## ◆団体基本情報

No.	17	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台市市民文化事業団		
所在地	〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘三丁目27番5号						
電話番号	022-276-6778		FAX番号	022-276-2108		所管 部局	文化観光局 文化振興課
団体ホームページ	<a href="https://ssbi.jp/">https://ssbi.jp/</a>						
代表者職氏名	理事長 立野 昭宏			設立年月日	昭和61年10月1日		
資本金・基本財産	1,059,744	千円	市の出捐額(割合)	1,000,000	千円	(94.4%)	
設立目的	文化芸術の振興、郷土の歴史の継承及び生涯学習の支援に関する事業を行い、もって魅力ある市民の文化創造と豊かな市民生活の実現に寄与することを目的とする。						
事業概要	市民の文化創造及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集・保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営、その他目的を達成するために必要な事業。						
評価対象決算期	令和4年4月1日～令和5年3月31日						

## ◆人員等の状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①常勤役員数	3 人	3 人	3 人
うち市派遣	0 人	1 人	2 人
市退職者	3 人	2 人	1 人
②常勤役員平均年齢	64.0 歳	62.3 歳	61.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	5,341 千円	5,105 千円	6,131 千円
④職員数	145 人	158 人	153 人
うち市派遣	1 人	1 人	1 人
市退職者	8 人	6 人	5 人
⑤職員平均年齢	45.0 歳	45.7 歳	45.8 歳
⑥職員平均年間給与	5,070 千円	4,852 千円	4,803 千円

## ◆主要財務データ

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①当期経常増減額	△ 6,094 千円	16,812 千円	43,349 千円
②当期経常外増減額	36 千円	0 千円	578 千円
③当期一般正味財産増減額	△ 6,058 千円	16,812 千円	43,928 千円
④一般正味財産期末残高	61,242 千円	78,054 千円	121,982 千円
⑤指定正味財産期末残高	1,103,136 千円	1,083,820 千円	1,062,744 千円
⑥正味財産期末残高	1,164,378 千円	1,161,874 千円	1,184,726 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

## ◆市の財政的関与

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①市からの補助金	620,157 千円	773,116 千円	757,027 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	1,545,436 千円	1,547,151 千円	1,566,210 千円
③市に対する収入依存度	97.48 %	94.06 %	91.56 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和4年度事業費
せんだいメディアテーク管理運営事業	平成4年度から令和8年度まで仙台市教育委員会から指定管理の指定を受けて、施設の管理運営を行った。	582,250 千円
仙台市青年文化センター管理運営事業	平成4年度から令和8年度まで仙台市教育委員会から指定管理の指定を受けて、施設の管理運営を行った。	364,581 千円
仙台文学館管理運営事業	平成4年度から令和8年度まで仙台市教育委員会から指定管理の指定を受けて、施設の管理運営を行った。	195,839 千円
仙台国際音楽コンクール事業	新型コロナウイルス感染症への対策を施したうえで第8回仙台国際音楽コンクールを開催し、関連事業を実施した。	316,266 千円
仙台クラシックフェスティバル事業	事業団設立20周年記念事業として、2006年（平成18年）、敷居の高いクラシック音楽に親しみを持ってもらい、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力を届けることを目的に立ち上げた事業。新型コロナウイルス感染症への対策を施したうえで16回目を開催した。	68,279 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	コロナ禍による制約を受けながらも、財団設立から35年を経て培ったノウハウやネットワークを駆使して、公益的使命、基本方針及び中期経営計画に基づいた多様な事業開発、文化芸術の普及啓発や人材育成、文化芸術関係者や市民活動の支援・助成、安全に安心して利用できる施設管理運営等に取り組んだ。	コロナ禍の影響が残る状況の中、財団の基本方針や中期経営計画に基づく取り組みを本市との連携のもと着実に進められたほか、市民による文化活動の継続・再開に向けた支援にも取り組んでいただいた。今後も社会状況や生活様式の変化等も踏まえつつ、専門的な見地から、公益性の高い事業の開発・実施に取り組んでいただきたい。
2. 業務・組織管理	財団が有する経営資源を効果的に活用できるよう、組織間及び施設間での連携強化を図り、地域文化を担う人材との連携を進めながら各事業に取り組んだ。人材育成については、新たな社会要請に応える劇場マネージャー育成を目的とする政策研究大学院大学の研修事業に職員2名を引き続き派遣するとともに、自主研修援助制度など独自研修の充実を図った。業務管理については、質の高いサービスの提供と適切な財団運営を目指し、必要な改善等に努めた。	自主研修援助制度の導入等、職員の自己啓発や能力開発への支援体制の強化に努められた。今後も高い専門性を有する人材の育成、適切な人員配置、組織間及び施設間、地域の人材との連携等に取り組む、効果的な組織運営・事業展開に努めていただきたい。
3. 財務状況	近年の金利低下による基本財産運用益の減少が常態化する中、基本財産の適切な運用を行った。コロナ禍による収入減への対応については、国や助成団体からの助成・補助、企業協賛金等の外部資金の活用を積極的に進めるとともに、受益者負担の推進や寄附受け入れを継続している。また、新たな試みとして、寄附型のクラウドファンディングを実施している。	コロナ禍の影響による収入減への対応のため、国や助成団体の助成金・補助金のほか、令和3年度に引き続き、寄附型のクラウドファンディングを活用するなど、財源確保に積極的に努められた。引き続き、基本財産の適正な運用を行うとともに、多様な資金調達手段の開発に努め、安定した経営・財務基盤を維持していただきたい。
4. 今後の方向性及び課題	コロナ禍によって、文化芸術を取り巻く環境が大きく変化した。こうした状況下において、文化事業の在り方や新たな実施手法について検討と実践を継続することで、新たなノウハウやネットワークも培われている。コロナ禍からの文化芸術の再生に向けて、仙台市の文化振興施策と緊密に連携しながら市民の文化活動の支援を進め、健全かつ適切な組織運営を継続してまいりたい。	昨今、市民による文化活動やニーズは多様化していることに加え、福祉や教育、観光との連携など、文化芸術の新たな役割が期待されている。また、本市では、現在、仙台市文化芸術推進基本計画の策定に向けた検討を進めているところであり、今後は文化芸術をとりまく環境の変化を踏まえながら、当該計画を推進するための事業展開や支援のあり方を検討し、実践していくことが求められる。これらを踏まえ、引き続き、本市との連携を図りながら、各事業を実施するとともに、財団の人材育成に一層努めていただきたい。